

■平成 31 年度 後期選抜 入試問題分析【社会】

■問題分析

1. 全体を通して

例年通り、小問が 6 つある大問が 5 つの 30 問の構成であった。昨年度は出題の順番に変更があり、第二問で公民が出題されたが、今年は第二問に歴史、第三問に公民というかたちに戻った。第四問と第五問に融合問題が配置されているのも例年通りである。歴史では「いつ」地理では「どこ」という知識を直接問う問題がやや多かったのが今年の特徴である。記述は昨年同様、複数の資料から考える問題が出題されている。

2. 大問ごとの分析

■出題・配点一覧

【第一問】地理

「中国とインドの産業」をテーマにした問題。2 の (2) に記述問題は、中国の教育産業の割合が高いことと、人口ピラミッドの資料を関連づけるのが難しかったと思われる。

【第二問】江戸時代前半までの歴史

「日本の貿易政策の歴史」についての問題。記号問題では問題 4、5 で出来事が起こった時期を問う問題が出題された。記述は資料にある内容をそのまままとめればよい。大問全体としてはやや易しい。

【第三問】公民

「国民の政治参加」に関する問題である。選択問題は 3 や 4 がやや難しく、語句に対する深い理解が求められた。5 の (2) の記述は、中学生にとって身近なテーマであり、資料もわかりやすく得点しやすい。

【第四問】三分野の融合問題

「東京オリンピック・パラリンピックからみる日本の姿」というテーマで出題された。大半が資料読み取り問題であり、オリンピックそのものに対する知識は必要ない。県庁所在地に関する問題や、地方区分の問題など、日本地理の基礎知識が問われた 3 (1) の、関東地方と中部地方の区分を「地図に書き込む」という問題は、宮城県の入試では珍しい。4 のピクトグラムに関する問題は、ニュースに関心のある生徒であれば書きやすかったと思われる。

【第五問】歴史と公民の融合問題

「日本の教育」をテーマにした問題である。この大問でも問題 3 と 4 で「いつそのできごとがあったのか」という知識が要求された。記述問題は、資料にある多くの文言をまとめる国語力が求められた。

■出題・配点一覧

科目	大問・単元	形式・内容	問題数	配点	小計
社会	第一問 地理	記号選択	4	12	20
		単語記述	1	3	
		文章記述	1	5	
	第二問 歴史	記号選択	5	15	20
		文章記述	1	5	
	第三問 公民	記号選択	5	15	20
		文章記述	1	5	
	第四問 融合問題	記号選択	3	9	20
		単語記述	1	3	
		地図への記入	1	3	
		文章記述	1	5	
	第五問 融合問題	記号選択	3	9	20
		単語記述	2	6	
		文章記述	1	3	